



展覧会・校舎の思い出プロジェクト

校長 内田 辰彦

11月22日、23日の両日に展覧会を開催しました。両日合わせて945名の方が来校されました。それに児童と教職員の数を加えると1500名程の方が展覧会に参観・参加していただいたこととなります。大勢の皆様のご来校に感謝します。今年は二小の展覧会では初めての試みの一つとして、22日の午後3時から午後7時までに参観していただく、「イブニング展覧会」を行いました。暗くなってからの体育館での参観も日中の様子と少し変わって好評でした。お勤め時間の関係で日中見られない方にも見ていただくことができたよかったです。

体育館には一人一人の平面と立体の作品を展示し、3年生以上の共同作品、イラストクラブの作品を展示しました。展示作品の鑑賞方法について図工専科から「展覧会だより」の中で、①近づいて見る（細部に注目する）②作った順番をたどる③それを作ったその子の訳を知る、の3点について示させていただきました。この3点に沿って見ていくと、技巧やデザイン、色彩のよさだけでなく、製作した子の思いや表現したいことが伝わりやすくなります。そして、この視点は図画工作の鑑賞だけでなく、一人一人の子供をよく知り子供に寄り添っていくことにつながると考えます。そういった視点で大勢の方に鑑賞していただけたことは、作品の鑑賞だけでなく二小の子供たちについて児童理解を深めていただいたものと考えています。

今回の展覧会ではもう1つ「校舎の思い出プロジェクト」という取組も行いました。これは、建替えや廃校などで、無くなってしまふ校舎に感謝の気持ち込めて直接校舎に絵を描き、その様子を記録に残すという取組です。ペンてる(株)さんとキャノンマーケティングジャパン(株)さんのご協力で実施できました。この活動は「ありがとう、ハートフルタウン」というテーマで行い、大好きなものがいっぱい街を描くという内容にしました。そしてハートフルな街に相応しくハートをたくさん描き、そこに感謝のメッセージを書いて想いを共有していくことにしました。

いつもであれば大切な校舎に直接絵を描いたり言葉を書いたりすることは禁止ですが、この取組に限って許されます。でも子供たちは始めのうちは遠慮がちに絵を描いていました。ただ、もっと自由に描いてよいことが分かってくると次第に大胆な絵を描いていくようになりました。保護者のボランティアの方に子供たちに絵具を配る「絵具ステーション」の担当を協力していただいたことで、思い通りに絵具を使うことができたことも子供たちの伸び伸びとした絵につながったと思います。

23日(土)には、子供たちと保護者の方が一緒にメッセージを書き、来校していただいた地域の方や卒業生の方々もたくさんのメッセージを書いてくださいました。同時に屋上庭園の開放や、校地内に残っている球根や苗木なども配ることができました。また、校舎の中に残っていた卒業製作や写真なども展示しましたが、多くの方に見ていただくことができました。

展覧会と思い出深い校舎へのお別れのイベントに大勢の皆様に参加・参観していただき、感謝の気持ちにあふれたハートフルな2日間となりました。ありがとうございました。



展覧会会場 保護者鑑賞日の様子



校舎の思い出プロジェクトの様子